RIHN-China Newsletter

総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点

天地人

第30号 No.30

Feb 2017

ISSN 1882-3580

草原で貴重な薪が高く組んで保管される。現在生木の伐採は禁止され、薪は旧正月などに利用される（内モンゴル・烏拉特後旗）

Contents

中国環境問題研究：総括と今後の展望
窪田順平 —— 2

五年交流、相互学習、共同認識構築、人と自然の共存を目指す
張　世　秋 —— 6

中国環境問題研究拠点刊行物 —— 8

『天地人』総目次（18号～29号） —— 10

中国环境问题研究：总结与今后的展望
窪田顺平 —— 2

五载交流、相互学习、构建共识、人与自然和谐共处
张　世　秋 —— 6

中国环境问题研究基地出版物 —— 8

天地人总目录（18号～29号） —— 10

Research on Chinese Environmental Issues: Summary and Future Prospect
Jumpei Kubota —— 2

Five Year's Exchanges, Mutual Learning, Consensus Building, Human and Nature Harmonious Coexistence
Shiqiu Zhang —— 6

The Publication of RIHN Initiative for Chinese Environmental Issues —— 8

Tenchijin's General Table of Contents for Vol. 18-29 —— 10

巻頭言

中国環境問題研究
：総括と今後の展望

総合地球環境学研究所　窪田順平

1. はじめに

総合地球環境学研究所・中国環境問題研究拠点は、人間文化研究機構の「現代中国地域研究」推進事業の一環として 2007 年度に設置され、この 2017 年 3 月に 2 期 10 年間の活動を終了する。ここで、2012 年から開始された第 2 期について、これを総括するとともに、今後の中国環境問題研究について、その方向性を議論する。

2. 第 2 期で何を目指したのか

中国環境問題研究拠点では、人間文化研究機構・現代中国研究事業第 2 期の全体の課題とされた「現代中国の学際的研究――新しい大国をどう捉えるか？」のもとで、「グローバル化する中国環境問題と東アジア成熟社会シナリオの模索」を主要な研究テーマに掲げた。その目指したところは、中国の環境問題を東アジアの枠組みの中で相対化し、東アジアの多様な自然との相互作用の中で形成された多元的な歴史的・文化的背景の理解を踏まえて、少子高齢化社会を迎える東アジアにおける住民の生活基盤の保障と資源開発・環境保全とを両立させる「東アジア成熟社会」を模索することであった。そのため、主に 1）歴史的な変遷を踏まえた環境政策、特に資源利用をめぐる環境ガバナンス、2） 生態系の保全と人々の健康を両立させる社会のあり方、3）グローバル化する中国の環境問題と国際協力のあり方、の 3 つの視点から研究を推進してきた。

3. 拠点の果たしたもの

上述した研究の方向性に従って、「中国の経済的な海外進出と環境問題」、「地域の環境と健康（エコヘルス）」、「持続的な農業・牧畜」、「環境ガバナンス」などを課題として、第 2 期 5 年間に 15 回の国際シンポジウム・ワークショップを開催したほか、国内では拠点が主催する中国環境問題研究会を 17 回、内外の研究組織と協力して開催する中国環境問題ワークショップを 10 回開催した。

第 2 期の中心的な課題でもある「グローバル化する中国」に関しては、中国によるアフリカ、あるいは中

写真 1　国際ワークショップ「中国旱作農業の歴史に学ぶ：黄土高原を中心に」（2015 年 8 月）

写真２　北京大学にて開催した「地球環境学講座」：総合地球環境学研究所安成哲三所長から受講生に受講証書を授与（2016 年３月）

央アジアへの資源開発を主とした経済的な進出にともなう地域社会の変容と環境問題の現状を明らかにした。アフリカでは、国家的な資源開発にともなう形で急激に増加する中国製品について、様々な経路で持ち込まれる中国製品が与える社会的な影響が無視できないなど、興味深い知見が得られた。また、地球研プロジェクト『北東アジアの人間活動が北太平洋の生物生産に与える影響評価』終了後に、政府間では協力関係が存在しないアムール川に関係諸国に間に、科学者レベルでの環境協力を図るために立ち上げられた「アムール・オホーツクコンソーシアム」の推進に協力した[1)]。アムール・オホーツクコンソーシアムの活動は人間文化研究機構の新たな地域研究事業である「北東アジア」に引き継がれている。

「地域の環境と健康（エコヘルス）」に関しては、アジア各地における環境と健康にについて歴史的な変遷も含めたその多様性を明らかにしてきた。この研究では、地球研の研究プロジェクト『熱帯アジアの環境変化と感染症』のテーマである「エコヘルス」について、当拠点が継続して中国を中心としたアジアの問題として研究したものである。この研究は、さらに人間文化研究機構の広領域基幹プロジェクト『アジアにおける健康と環境：新たな人間と環境との関係性としての「エコヘルス」概念の再構築に向けて』へと発展している。

環境ガバナンスについては、長期化する中国の環境汚染の問題や、中国各地とくに半乾燥地域や、太湖流域、洱海流域などの閉鎖流域（湖沼）における水資源管理を取り上げて、議論を重ねた。この中で、地球研プロジェクト『病原生物と人間の相互作用環』の成果に加え、九州大学東アジア環境研究機構等の成果を持ち寄り、本拠点と上海交通大学との共催による国際シンポジウム「湖の現状と未来可能性」を開催するとともに、これをとりまとめた『湖の現状と未来可能性』（RIHN-China Study Series No.3, 2014）を発行した。また、日本学術振興会二国間交流事業「流域環境ガバナンスに関する日中共同セミナー」の成果を、『流域ガバナンスと中国の環境政策』（白桃書房、2015 年）にとりまとめて刊行した。

これら研究活動に加え、北京大学との研究協力協定に基づき、学生及び大学院生を対象とした「地球環境学講座」を毎年開催する[2)]など、新たなネットワーク構築に努めている。

4. 中国環境問題の現在と今後の研究の方向性

中国では環境問題が深刻化し、情報公開が必ずしも十分ではない社会状況の中で、国営企業などによる水質汚染、土壌汚染などが、健康や食の安全に対して大きな脅威となっていることに国民は強い懸念を持っている。旭硝子財団が毎年世界各国で環境問題に携わる政府や民間の有識者を対象に実施するアンケート調査[3)]によれば、多くの国、地域で「気候変動」に最も関心が高いのに対し、中国では「環境汚染」が最も懸念されている項目に挙げられる。住民による暴動も頻発し、共産党政権がもっとも恐れる社会の不安定化要因のひとつと言われる[4)]。

こうした状況に対処するため、習近平政権は環境問題の解決へ積極的な取り組みを見せている。「生態文明建設」をスローガンに掲げ、従来の四位一体（経済、政治、文化、社会）の国家建設の方針を、「生態建設」を加えた「五位一体」と改めた。その方針の下で、環境保護法の改正や、経済優先の原因である人事評価制度に環境問題に関する責任を果たすことを組み込み、さらに情報公開の促進や住民、環境 NGO などによる汚染企業の監視など進めるなど、改革を進めている。PM2.5 に示される大気汚染の主要な原因は、中国の石炭を中心としたエネルギー供給態勢であり、二酸化炭素排出の原因とも重なっている。2015 年末にパリで開催された気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定に対し、中国がいち早くその批准を承認したことは、自らが抱える最大の環境問題である PM2,5 解決への取り組みが、結果的に二酸化炭素の排出量削減に結びつくため、国内問題と国際的な課題の解決を目指す中国政府の意図をよく示している。中国政府が COP21 において当初より国際的イニシアティブを取ることを考えていたとは思えない。しかし、まさに国内外の「機会」を利用して、これまでの途上国の立場を捨て、超大国として温暖化対策における国際的イニシアティブを担うことを狙う中国指導部の姿勢は明確である[5]。

長期化する中国の環境問題に対して、日本の中国環境研究も単なる問題の指摘から具体的な解決への貢献が求められている。また、中国政府の温暖化対応は、上述したように積極的な方向へと転換しており、政策、経済などを含めて、従来よりもさらに重層的な環境研究が必要とされている。

写真３　総合地球環境学研究所・中国環境問題研究拠点の刊行物
（左）『天地人』27 号（2015 年 9 月）
（中央）『天地人』28 号（2016 年 2 月）
（右）『流域ガバナンスと中国の環境政策 ――日中の経験と知恵を持続可能な水利用にいかす』（北川秀樹・窪田順平編著、白桃書房、2015 年）

5. 共同研究による国際環境協力の可能性を求めて

中国環境問題研究拠点が中心となって、地球研は平成 28 年 5 月に新たに江蘇省常州市との研究協力協定を締結し、中国・太湖に流入する河川の一つである江蘇省常州市・武進港流域を対象とした水質改善に関する共同研究を計画している。太湖は中国第 3 位の面積を持つ湖沼で、2007 年にアオコが大発生し、太湖を飲料水の水源としている江蘇省・無錫市での大規模な給水制限などの問題が生じた。太湖流域の詳細については、『天地人』前号に掲載された朱論文[6]を参照されたいが、中央政府や江蘇省など地方政府が主導した様々な環境対策の実施により、太湖の水質は改善されつつあるが、未だに多くの課題を抱えている。従来水田農業が主体であった太湖流域において、中国の食生活の変化により、畜産や水産養殖、あるいは換金性の高い果樹等への転換が進み、結果的に負荷量の増加を招いている。このように、環境保全と農民の生活レベルの維持を同時に行う施策が求められている。日中の環境協力に関しては、PM2.5、あるいは黄砂の問題ばかりでなく、海洋汚染などを見ても、風上、風下（上流、下流）という関係性に目が行きがちである。風上側に二酸化炭素をはじめ、産業活動に起因する多くの公害型の汚染問題に直面する中国が存在する一方で、風下に省エネルギーや環境汚染の防止に関して世界でも有数の技術をもった日本がいる。このため、特に日本は技術的協力という考えにこだわりがちであるが[7]、単なる技術移転だけでは問題が解決しないことは、太湖の事例がそれを示しているとも言える。中国環境問題研究拠点としてはいったんその活動を終えるが、地球研としての新たな環境協力の可能性へのチャレンジは続けられる。

参考文献

1）花松泰倫：トランスナショナルな環境保全を目指す多国間学術ネットワークの意義と役割：アムール・オホーツクコンソーシアム第 4 回会合から見えたもの . 天地人、No. 29, 11-13, 2016.

2）例えば、張翔：2016 年 RIHN-PKU 地球環境学講座紀要 . 天地人、No.29, 14, 2016.

3）公益社団法人旭硝子財団地球環境問題と人類の存続に関するアンケート
http://www.af-info.or.jp/blog/q-info/（2017 年 1 月 9 日閲覧）

4）北川秀樹：中国の環境政策とガバナンス――西北地域における環境保護政策．北川秀樹編著『中国乾燥地の環境と開発――自然、生業と環境保全』. 成文堂、45-87，337pp，2015.

5）窪田順平:「美麗中国」本気度は？　パリ協定批准舞台裏 . YOMIURI ONLINE，http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20160928-OYT8T50096.html

6）朱 偉：中国における水質汚染と日本の経験の活用：中日産学連携研究と技術協力プラットフォームの構築 . 天地人、No.29, 1-10, 2016.

7）窪田順平：中国の環境問題と日中環境協力の可能性 . nippon.com
http://www.nippon.com/ja/in-depth/a03101/

中国环境问题研究

总结与今后的展望

窪田顺平
综合地球环境学研究所

综合地球环境学研究所・中国环境问题研究基地成立于 2007 年，作为人间文化研究机构的“现代中国地域研究”推进事业的一环，它将于 2017 年 3 月完成使命。研究基地的活动共举办了 2 期，持续了 10 年。在 2012 年起的第二期期间，以“全球化的中国环境问题与东亚成熟社会模式的探索”为主题，着重实施了以下工作：综合地球环境学研究所的研究项目的成果统合及传播、以中日大学、研究机构等为中心的研究网络的构筑、研究项目的形成。此外，还出版了《湖泊的现状与未来可能性》、《流域管理与中国的环境政策》等书籍，发行了通讯杂志《天地人》。并在北京大学等地举办了“地球环境学讲座”。今后基地的活动将以人间文化研究机构的“生态健康”项目展开、与北京大学之间的合作、以及与常州市的共同研究等形式继续传承，我们期待其进一步的发展。

Research on Chinese Environmental Issues

: Summary and Future Prospect

Jumpei Kubota
Research Institute for Humanity and Nature

The RIHN Initiative for Chinese Environmental Issues（RIHN-China）was founded in 2007. As being an important promoting part of Contemporary Chinese Area Studies of NIHU, RIHN-China has organized activities for two consecutive five-year periods, and will end its mission in March 2017. During the second five-year period from 2012, RIHN-China, with the theme of “China’s globalized environmental issues and prospects of matured East Asian society”, focused on implementing the following works: integrating and spreading the outcomes of the RIHN research projects, constructing the research network centered with the Sino-Japan universities and research institutions, and producing the new research projects. The books such as “Our Lakes: From the Present towards a Future Perspective”, and “Watershed Management and Environmental Policy in China” were published. Also, the newsletter entitled “Ten-Chi-Jin（Tian-Di-Ren）” was published. In addition, we organized the lectures on Global Environmental Studies at Peking University and Nanjing University. In the future, the activities of RIHN-China will be inherited through development of NIHU-Ecohealth project, cooperation between RIHN and Beijing University as well as joint research project with Changzhou city.

五载交流、相互学习、构建共识、人与自然和谐共处

北京大学环境科学与工程学院　张　世秋

自 2012 年 2 月 19 日日本综合地球研究所与北京大学环境科学与工程学院合作在北京大学举办第一次“北京大学环境科学与工程学院——日本综合地球环境学研究所地球环境学讲座”以来，这个在北京大学具有很大影响力的讲座已经成功举办了五届，累计参与讲座的北大师生多达 700 多人次，参与的师生来自北大十余个不同院系，更有来自其他院校、组织的个人参加。该讲座秉承“通过介绍日本和亚洲各国的环境问题及地球环境问题的研究现状与进展，推进跨学科、跨学术领域的交流，摸索解决地球环境问题的方向”的宗旨，系列讲座不仅探讨中日环境与发展问题现状、日本学者的中国环境研究、中日环境保护经验分享借鉴等学术研究成果，同时，从多学科、多视角，以前瞻性、前沿性和思想性为特点，基于对人与自然、环境与发展、环境与社会的关系的辨析，探究综合地球环境学的学科体系构建及其哲学、文化、人文、自然科学基础和多学科的整合与交叉，广泛交流和传播更为综合的“地球环境学”的学理基础和研究方法以及学科体系建设设想。

中国可以借鉴日本经验，推动中国可持续发展

当代中国，正处在经济高速发展、社会全面转型阶段。中国正以脆弱的生态环境承载着历史上最多的人口，面临着前所未有的环境挑战。改革开放以来，中国社会经济长足发展，2010 年中国的经济总量跃居全球第二，但与此同时，中国资源利用效率低下、环境污染问题突出、资源环境代价过大，可持续发展堪忧。面临环境与发展之间的矛盾与冲突，为在全球化过程中实现中国社会 - 经济 - 环境的可持续发展，中国政府强调要进行经济结构调整，并促进从粗放型、资源消费型的经济增长方式，向集约型、节约能源型的经济增长方式转变。中国作为后发展国家，在立足本国国情与需求的基础上，更好地借鉴其它国家的经验与教训，可以有助于以少付代价，少走弯路的方式，实现环境与发展的协调。

日本与中国虽然发展阶段不同，但都在经济快速发展的同时，同样经历了生产规模扩大、生活方式改变等人类活动对环境影响明显化的过程。二战后，日本选择出口导向的发展战略，经济高速增长，当时也面临严重的环境污染和资源稀缺等问题。60 年代末，日本各地爆发居民反公害运动，相关地方自治体政府积极响应，进而推动中央政府前所未有地谋求解决环境问题。自此，70 年代以来，日本在各阶段都不断制定和改进环境治理的具体法律、政策、工具、技术，同时，更关注支撑和保障上述法律、制度、政策有效实施的社会、经济和政治保障条件，包括对政府与市场、国家与社会，中央与地方、城市与乡村，资本者与劳动者、生产者与消费者，以及大都市与中小城镇、创新行业与传统行业等多领域、多阶层、多地方关系与利益、权力与责任、机会与代价的分配与调整，相应的举措不仅遏制了环境污染，更推动了本国的环境与经济和社会的协调发展。

日本在处理环境与发展协调时，最为成功并值得中国重点关注和借鉴的有以下几个方面：一、从日本的环境政策来看，政策工具的种类已经从简单走向复合多样，同时越来越重视经济激励手段和社会管理手段的综合运用。且由于人口、产业集中度高，日本借助国土规划、产业政策等的引导对污染的综合治理发挥了重要作用。二、从体制机制来看，完善的顶层设计、健全的行政机构、中央与地方合理划分环境管理责任与支出责任、社会的广泛参与等都是其重要保障。政府部门之间的密切合作和有效协商、高度的行业自治和企业自我规制，虽使得决策过程较长且较复杂，但一旦达成，就能很好的实施与执行。特别是政府、行会、大企业集团带头示范、中小企业与大企业集团配套等日本独特的组织与做法，对于中国也有很多的借鉴意义。三、地方与社区自治、信息公开、媒体开放、司法独立等制度安排下，以及快速现代化提升生活品质的需求，使得公民环境意识强、民间组织相对发达与活跃，公共参与水平高，形成责权利匹配下全民多元共治的良治局面。因此，日本

的国家（政府）协调、地方为主、社会参与、市场激励、企业自治的治理模式，以及环境决策和政策体制的设计与实施，均可以为中国借鉴和参考。

中日一衣带水，中日合作有助于推动亚洲环境与发展问题破解

地球的整体性和人—地相互依赖性决定了实施可持续发展是全球范围内的全人类的共同行动。伴随全球化进程，资源、产品、技术、资本的全球流动，以及环境问题的特点特别是影响的多样化和范围的扩大化，各国环境问题不仅因贸易关系带来“环境和污染”的贸易问题，也借由技术、资本和产品的全球性流动，使得即便是局地问题也具有“全球意义”，使其成为跨国境的区域或全球问题，同时全球性环境问题日渐凸显，包括气候变化、臭氧层耗损、生物多样性锐减以及持久性有机污染物的影响等。地区可持续发展是全球可持续发展的不可分割的部分。亚洲特别是东亚的快速发展以及应对全球环境问题的压力，人们对世界上人口众多、经济上占有重要地位的中国以及日本等东亚地区的关注以及期待也越来越高，作为亚洲地区的重要国家，中日两国对亚洲乃至全球的可持续发展具有义不容辞的责任，两国之间不同层面的交流与合作，不仅有助于两国各自和共同的环境问题的研究和解决，毫无疑问可以推进亚洲乃至全球的环境及可持续发展的共识与合作。

展望

“地球环境学讲座”开启了中日环境合作的另一个篇章，它不仅是日本综合地球研究所与北京大学之间的合作，也是中日两个环境合作与交流的重要组成部分，以此为基础，今后，日本综合地球研究所与北京大学之间的合作不仅应继续“地球环境学讲座”的有关形式和内容，包括环境与发展问题、环境综合管理、环境污染治理等方面的学术交流、实证研究探讨、政策分享等，同时，可以更进一步加强两国研究人员和年轻学生之间的合作研究和交流互访，共同推动“综合地球环境学”研究，使其真正成为引领 21 世纪全球人与自然关系研究与社会行动的学术思想基础。此外，中日双方更可以借此加强政 - 产 - 学 - 研的交流和合作，推动中日乃至亚洲的共同可持续发展实践。

五年交流、相互学習、共同認識構築、人と自然の共存を目指す

張　世秋
北京大学環境科学与工程学院

総合地球環境学研究所と北京大学の「地球環境学講座」の過程を簡潔に回顧し、このシリーズ講座から重要な日本経験を取り上げ、総括した。さらに、中日環境研究分野の交流における意義や未来への展望などについてまとめた。

Five Year’s Exchanges, Mutual Learning, Consensus Building, Human and Nature Harmonious Coexistence

Shiqiu Zhang
College of Environmental Sciences and Engineering, Peking University

Briefly reviewing the joint lecture on Global Environmental Studies between RHIN and PKU, refining and summarizing the important Japanese experiences, the significance and future prospects of Sino-Japan environmental exchanges.

中国環境問題研究拠点刊行物

1. 地球研拠点としての刊行物

（1）中国环境问题研究基地编（2017 年 3 月に刊行予定）
《探求環境問題解決之道——人与自然和諧共存》同济大学出版社 .

（2）北川秀樹、窪田順平編著（2015 年）
『流域ガバナンスと中国の環境政策——日中の経験と知恵を持続可能な水利用にいかす』白桃書房 , 265p.

（3）川端善一郎、孔海南、呉徳意、福士由紀、窪田順平編（2014 年）
『湖の現状と未来可能性』（湖泊的现状与未来可能性 , Our Lakes: From the Present towards a Future Perspective）（RIHN-China Study Series No.3）松香堂書店 , 192p.

（4）Yuki Konagaya, Sareengerile, Kanako Kodama（Eds.）（2011）
An Oral History of Mothers in the Ejene Oasis, Inner Mongolia （RIHN-China Study Series No.2）, Shoukadoh, 351p.

（5）尹绍亭、窪田順平编（2010 年）
《中国文化与环境（第一辑）》云南人民出版社 , 386p.

（6）中国環境問題研究拠点編（2010 年）
『エゼネ旗コミュニティ発展と自然保護プロジェクト』（RIHN-China Study Series No.1）総合地球環境学研究所・中国環境問題研究拠点 , 213p.

（7）中尾正義、銭新、鄭躍軍編（2009 年）
『中国の水環境問題——開発のもたらす水不足』勉誠出版 , 223p.

（8）陈菁、钱新、中尾正义主编（2008 年）
《社会开发与水资源水环境》河海大学出版社 , 179p.

（9）中国環境問題研究拠点編（2007 年 10 月—2017 年 3 月）
ニュースレター『天地人』（創刊号—第 30 号）

2. 地球研拠点メンバーによる主な単行本

（1）Hideki Kitagawa（Ed.）（2017）
Environmental Policy and Governance in China, Springer, XII +198p.

（2）Ken’ichi Nakagami, Jumpei Kubota, Setiawan Budi Indra（Eds.）（2016）
Sustainable Water Management-New Perspectives, Design, and Practices, Springer, X +189p.

（3）北川秀樹編著（2015 年）
『中国乾燥地の環境と開発——自然、生業と環境保全』成文堂 , 352p.

（4）児玉香菜子、サランゲレル、 アラタンツェツェグ編著（2014 年）
『乾燥内モンゴル・ゴビ砂漠、黒河オアシスに生きる男たち 23 人の人生』名古屋大学大学院文学研究科比較人文学研究室 , 502p.

（5）佐藤洋一郎、谷口真人編（2013 年）
『イエローベルトの環境史——サヘルからシルクロードへ』弘文堂 , 232p.

（6）秋道智彌著（2013 年）
『漁撈の民族誌——東南アジアからオセアニアへ』昭和堂 , 186p.

（7）北川秀樹、石塚迅、三村光弘、廣江倫子編集（2013 年）
『現代中国法の発展と変容——西村幸次郎先生古稀記念論文集』成文堂 , 360p.

（8）窪田順平監修、応地利明著（2012 年）
『中央ユーラシア環境史（4）生態・生業・民族の交響』

『湖の現状と未来可能性』
（川端善一郎、孔海南、呉徳意、福士由紀、窪田順平編、2014 年、松香堂書店、192p.）

臨川書店 , 427p.
（9）窪田順平監修、渡邊三津子編（2012 年）
『中央ユーラシア環境史（3）激動の近現代』臨川書店 , 301p.
（10）窪田順平監修、承志編（2012 年）
『中央ユーラシア環境史（2）国境の出現』臨川書店 , 268p.
（11）窪田順平監修、奈良間千之編（2012 年）
『中央ユーラシア環境史（1）環境変動と人間』臨川書店 , 312p.
（12）原田正純著、包茂红・郭瑞雪译（2012 年）
《水俣病 : 史无前例的公害病》北京大学出版社 , 253p.
（13）小長谷有紀、川口幸大、長沼さやか編（2011 年）
『中国における社会主義的近代化――宗教・消費・エスニシティ』勉誠出版 , 326p.
（14）Masayoshi Nakawo, Yuki Konagaya, Shinjllt（Eds.）（2010）
Ecological Migration: Environmental policy in China, Peter Lang Pub Inc, 283p.
（15）佐藤洋一郎監修、鞍田崇編集（2010 年）
『ユーラシア農耕史（第 5 巻）農耕の変遷と環境問題』臨川書店，256p.
（16）佐藤洋一郎監修、木村栄美編集（2009 年）
『ユーラシア農耕史（第 4 巻）さまざまな栽培植物と農耕文化』臨川書店 , 366p.

『中国の水環境問題――開発のもたらす水不足』
（中尾正義・銭新・鄭躍軍編、勉誠出版、2009 年、223p.）

《中国文化与环境（第一辑）》
（尹绍亭、窪田順平编、云南人民出版社、2010 年、386p.）

（17）佐藤洋一郎監修、鞍田崇編集（2009 年）
『ユーラシア農耕史（第 3 巻）砂漠・牧場の農耕と風土』臨川書店 , 254p.
（18）佐藤洋一郎監修、木村栄美編集（2009 年）
『ユーラシア農耕史（第 2 巻）日本人と米』臨川書店 , 257p.
（19）佐藤洋一郎監修、鞍田崇編集（2009 年）
『ユーラシア農耕史（第 1 巻）モンスーン農耕圏の人びとと植物』臨川書店 , 274p.
（20）窪田順平、承志、井上充幸編（2009 年）
『イリ河流域歴史地理論集――ユーラシア深奥部からの眺め』松香堂 , 315p.
（21）Kennichi Abe, James Nickum（Eds.）（2009）
Good Earths: Regional and Historical Insight into China’s Environment. Frontiers of Area Studies, Kyoto University Press, 292p.
（22）中尾正義、フフバートル、小長谷有紀編（2007 年）
『中国辺境地域の 50 年――黒河流域の人々からみた現代史』東方書店 , 220 p.
（23）秋道智彌編（2007 年）
『図録メコンの世界――歴史と生態』弘文堂 , 152p.
（24）秋道智彌編（2007 年）
『水と世界遺産――景観・環境・暮らしをめぐって』小学館 , 224p.

『天地人』総目次（18 号～29 号）

第 18 号

◆巻頭のことば	◆前言		
・中国環境問題研究拠点第 2 期に向けて	・关于中国环境问题研究基地第 2 期学术活动	窪田順平	2
◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述		
・第 1 回地球環境学講座の報告	・第 1 届地球环境学讲座报告	松永光平	4
・地球環境学講座のテーマと特徴（中国語）	・地球环境学讲座的主题和特点（中语版）	王　遠	6
・第 1 回地球環境学講座に参加して	・参加第 1 届地球环境学讲座	源 利 文	7
・国際シンポジウム「近代的所有権によるコミュニティの変質」の報告	・国际研讨会《现代所有权制度引起的社区变化》简介	奥田進一	8
◆研究機関紹介	◆研究机构简介		
・南京大学環境学院の紹介（中国語）	・南京大学环境学院简介（中语版）	陸 根 法	10
・中国の西南環境史研究：雲南大学西南環境史研究所の紹介（中国語）	・中国的西南环境史研究：云南大学西南环境史研究所简介（中语版）	周　琼	12
◆書評－『水俣病』	◆书评－《水俣病》		
・多数派の陰の少数派、多数派は幸せか？（中国語／日本語）	・少数服从多数，多数就幸福吗?（中语版／日语版）	汪 永 晨	14

第 19 号

◆巻頭のことば	◆前言		
・中国の農村汚水処理の課題	・中国农村污水处理的课题	高橋五郎	2
◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述		
・追根溯源 借鑑創新（中国語／日本語）	・追根溯源 借鉴创新（中语版／日语版）	李 金 鳳	4
・第 2 回地球環境学講座の報告	・第 2 届地球环境学讲座报告	松永光平	6
・2012 International Water Market Symposium 報告	・2012 International Water Market Symposium 报告	遠藤崇弘	8
◆書評－『中央ユーラシア環境史』	◆书评－《中央欧亚大陆环境史》		
・クールな環境史へのチャレンジ	・环境史的新尝试	飯島　渉	10
◆研究紹介	◆研究介绍		
・中国太湖流域漁民と内水面をめぐる「官」「私」「共」	・中国太湖流域渔民和内陆水域的“官”、“私”、“共”	太田　出	12
・洱海の生態環境と白族漁民の生計変容（中国語）	・洱海生态环境与白族渔民生计的变迁（中语版）	張　桔	14
◆研究会報告	◆研究会报告		16

第 20 号

◆巻頭のことば	**◆前言**	
・中国環境問題研究拠点の行く末（日本語／中国語）	・中国环境问题研究基地的前景（日语版／中语版）	立木成文　2
◆シンポジウム報告	**◆学术研讨会综述**	
・「地下温暖化と地熱エネルギー国際」ワークショップ（中国語）	・西安交通大学组团参加“地温变暖与地热能”研讨会（中语版）	潘　翠　4
・日中国際ワークショップ「中国環境問題の過去・現在・未来」	・日本国际研讨会“中国环境问题的过去、现在、未来”	福士由紀　6
◆研究紹介	**◆研究介绍**	
・雲貴地区水利調査手記（一）・貴州編	・云贵地区水利调查手记（一）・贵州篇	鄒　怡　8
・海南省鸚哥嶺自然保護区と経済発展状況の分析（中国語）	・海南鹦哥岭自然保护区与社区经济发展现状分析（中语版）	羅 文 雄　10
・中国の少子高齢化を考える	・中国少子高龄化之思考	厳 善 平　12
・研究から行動へ（中国語／日本語）	・从研究到行动（中语版／日语版）	張 芸 蘊　14

第 21 号

◆巻頭のことば	**◆前言**	
・中国内陸農村と農民の環境意識	・中国内陆农村和农民的环保意识	内山雅生　2
◆シンポジウム報告	**◆学术研讨会综述**	
・「流域がバランスに関する日中共同セミナー」への参加報告	・“中日流域治理国际研讨会”的参会报告	櫻井次郎　4
・「日中都市廃棄物政策研究ワークショップ」の報告	・“中日城市废弃物政策研究互动讲座”报告	金 紅 実　6
◆研究紹介	**◆研究介绍**	
・雲貴地区水利調査手記（二）・雲南編	・云贵地区水利调查手记（二）・云南篇	鄒　怡　8
・中国の食糧需給と予測研究の概観	・中国粮食供需与预测研究概述	草野栄一　10
・中国海南省におけるマラリア流行の特徴と影響要素の分析（中国語／日本語）	・中国海南省疟疾流行特征与影响因素分析（中语版／日语版）	王 善 青　12
・中国西北乾燥地域内陸河流域における農村居民の水資源認知の差異とその政策への応用（中国語）	・中国西北干旱区内陆河流域农村居民水资源认知差异及政策启示（中语版）	鐘 方 雷　14

第 22 号

◆巻頭のことば	◆前言		
・アフリカの石油資源をめぐる中国の動向	・围绕非洲石油资源的中国动向	望月克哉	2
◆研究紹介	◆研究介绍		
・中国における環境保護法改正の動向	・中国环境保护法修正动向	文 元 春	4
◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述		
・国際ワークショップ「湖の現状と未来可能性」報告	・“湖泊的现状与未来可能性”国际研讨会报告	山中裕樹	6
・科学と人文学の結合による地球環境の総合的研究（中国語）	・科学和人文相结合的地球环境综合研究（中语版）	周 宇 陽	8
・日中シンポジウム「東アジアの都市化と福祉・環境問題」（中国語／日本語）	・中日国际研讨会“东亚的城市化与福祉、环境问题”（中语版／日语版）	陳 俊 峰	11
◆研究紹介	◆研究介绍		
・中国の中央アジアにおける資源外交	・中国的中亚资源外交	渡辺紫乃	14

第 23 号

◆巻頭のことば	◆前言		
・深刻化する環境問題にどう対応するか？	・如何应对日趋严重的环境问题	北川秀樹	2
◆研究紹介	◆研究介绍		
・急速に都市化する上海における都市生態学研究（中国語）	・快速城市发展进程中的上海城市生态学研究（中语版）	達 良 俊・陳 暁 双	5
・再生資源貿易と公害輸出	・再生资源贸易与公害输出	林　宰司	8
・中国農村における環境汚染対策と基層ガバナンス	・中国农村的环境污染对策和基层治理	山田七絵	10
・中国における医療改革の動向	・中国的医疗改革动向	李 蓮 花	12

第 24 号

◆巻頭のことば	◆前言		
・持続可能な発展へ向けた地球環境研究 ── RIHN-PKU 地球環境学講座（中国語）	・可持续发展的地球环境研究 -RIHN-PKU 地球环境学讲座（中语版）	要 軼 麗・趙 東 陽	2
◆研究紹介	◆研究介绍		
・海南島黎族における生態観念の変化（中国語）	・海南岛黎族生态观念的变迁（中语版）	黄 友 賢	5
・水源涵養機能の技術的な回復システム構築による渾河上流の水質悪化の抑制（中国語）	・构建水源涵养功能恢复技术体系，遏制浑河上游水质恶化趋势（中语版）	陳　欣	8
・滇池南西部農業地域における農業起因の水質汚染状況の把握	・关于滇池西南部农业地区农业所致水质污染情况的报告	渡辺一生	10
◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述		
・東アジアにおける排泄物・健康・環境 ── 第 36 回中国環境問題研究拠点研究会	・东亚地区的排泄物、健康和环境 - 第 36 次中国环境问题研究基地研讨会	福士由紀	12
◆研究紹介	◆研究介绍		
・開発は誰のためだ ── 海南島山村訪問記	开发到底为了谁 - 海南岛山村访问记	蒋 宏 偉	14

第 25 号

◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述		
・「東アジアの農村社会と景観の未来」ワークショップ（英語）	・“东亚农村社会与景观的未来”研讨会（英语版）	スティーブン・マックグリーヴィー	2
◆交流事業紹介	◆交流项目简介		
・東アジア地域の大学間連携による教員養成の質保証を考える	・通过东亚地区大学间的合作保证教师培养质量的考量	下田　誠	8
◆研究紹介	◆研究介绍		
・身体観と食	・身体观与膳食	田所聖志	10
・中国寒冷高地における身体適応と生活習慣病	・中国寒冷高原环境下的身体适应与生活习惯病	市川智生・蔡 国 喜・山本太郎	12
・中国の都市化における資源配置の相互連携性に関する問題	・中国城市化进程中资源配置的协同问题	鄒　怡	14

第 26 号

◆巻頭のことば	**◆前言**	
・北京の青空	・北京的蓝天　小長谷有紀	2
◆研究紹介	**◆研究介绍**	
・李占昌さんとの対話	・与李占昌先生的对话　縄田浩志	5
・中国西北部乾燥地域のオアシス農業における節水様式（中国語）	・中国西北干旱区绿洲农业的节水模式（中语版）　周 石 磽	12
◆シンポジウム報告	**◆学术研讨会综述**	
・屎尿処理の過去と現在（中国語）	・屎尿处理的前世今生（中语版）　蒋 宏 偉	14

第 27 号

◆巻頭のことば	**◆前言**	
・黒竜江（アムール川）流域の環境保全が求められる理由	・为何需要对黑龙江流域环境进行保护　白岩孝行	2
◆シンポジウム報告	**◆学术研讨会综述**	
・「中国当代史」ワークショップ	・“中国当代史”研讨会　福士由紀	4
◆研究報告	**◆研究报告**	
・中国における森林生態系の健全性に関する研究の現状と展望（中国語）	・中国森林生态系统健康研究现状及其发展（中语版）　許 俊 麗・達 良 俊	6
◆研究紹介	**◆研究介绍**	
・世界及び中国重要農業文化遺産保護の進展（中国語）	・全球 / 中国重要农业文化遗产保护进展（中语版）　焦 雯 珺・閔 慶 文	9
◆シンポジウム報告	**◆学术研讨会综述**	
・持続可能な地球環境の研究 ── RIHN-PKU 地球環境学講座紀要（中国語）	・持续发展的地球环境研究 -RIHN-PKU 地球环境学讲座纪要（中语版）　謝 鵬 飛	11
◆研究紹介	**◆研究介绍**	
・モンゴルの畜フン文化	・蒙古的畜粪文化　包 海 岩	14

第 28 号

◆巻頭のことば	◆前言	
・環境政策と人災	・环境政策与人祸论　秋道智彌	2
◆研究報告	◆研究报告	
・中国都市人工環境と健康的なライフスタイル ── 新たな研究分野の出現（中国語）	・中国城市建成环境与健康的生活方式 - 一个新兴的研究领域（中语版）　林　琳	5
◆フィールド報告	◆田野报告	
・はじめての内モンゴル ── アフリカ研究者が見た現代の草原世界	・初次内蒙古 - 非洲研究的学者所观察到的现代草原世界　石山　俊	9
◆研究報告	◆研究报告	
・歴史を伝承し、未来を守る ── 中国の世界農業遺産について（中国語）	・传承历史、守望未来 - 全球重要农业文化遗产项目（GIAHS）在中国（中语版）　閔 慶 文	12

第 29 号

◆研究報告	◆研究报告	
・中国における水質汚染対策の動向と日本の経験の活用 ── 日中産学連携研究と技術協力プラットフォームの構築（中国語／日本語）	・中国水污染治理的动向以及日本经验的借鉴 - 中日产学研技术合作平台的构建（中语版／日语版）　朱　偉	2
◆シンポジウム報告	◆学术研讨会综述	
・トランスナショナルな環境保全を目指す多国間学術ネットワークの意義と役割 ── アムール・オホーツクコンソーシアム第 4 回会合から見えたもの	・面向跨国环境保全的多国间学术网络的意义与作用 -“阿穆尔河 - 鄂霍次克海联合”第 4 次会议之所见　花松泰倫	11
・2016 年 RIHN-PKU 地球環境学講座紀要（中国語）	・2016 年 RIHN-PKU 地球环境学讲座纪要（中语版）　張　翔	14

◎出版物のお知らせ

中国环境问题研究基地 编

『探求環境問題解決之道——人与自然和諧共存』

（同济大学出版社、2017 年 3 月、171p.）

摘　要

本书是日本综合地球环境学研究所・中国环境问题研究基地，基于研究所成立以来实施的 10 数个以中日学者合作研究为主的国际间合作项目的研究成果。本书的内容有四个特色：第一、时间广度，既有关于包括中国在内的东亚地区的古环境与农耕起源的课题，也有现今正在发生的水环境问题以及现代农村发展与传统文化的问题；第二、地理广度，不仅涵盖中国东西南北，也有中日比较；第三、学科综合性，每篇论文都是针对研究对象地区的环境问题特点，由不同学科的学者共同研究得出的成果，虽然不尽相同，但基本涵盖了理、工、农、医以及人文社会学科；第四、前沿性，相关内容不仅包括环境领域最前沿的环境 DNA 技术的介绍，也有关于环境新概念“生态健康 (Ecohealth)”的说明。

本书将为国内的环境学界介绍更多的相关研究的先进手法及前沿理念，可加强一般读者对解决环境问题重要性的理解，亦可对促进包括中国与日本在内的多国间的环境领域合作起到积极作用。

目　录

序言

第一部：人与水

丝绸之路上的水与人 …… 窪田顺平

过去两千年间中国西北地区祁连山区出水量的变化及其对黑河流域农业区的影响
…… 坂井亚规子、井上充幸、藤田耕史、奈良间千之、窪田顺平、中尾正义、姚檀栋

移动的人们，移动的边界—从亚洲的过往中学到的
…… 中尾正义

社会的流动性与恢复力—从中央欧亚大陆人与自然相互作用的综合性研究成果来看 …… 窪田顺平

第二部：地域生态史

湄公河流域水产资源管理的生态史 …… 秋道智弥

麦子风土的形成 …… 佐藤洋一郎

中国新石器时代长江流域农业景观的变迁 …… 槙林启介

第三部：人与自然研究的新展开

对中国云南省天然湖泊中鱼类病原性病毒的监测
…… 源利文、普孝英、谢杰、董义（音）、吴德意、孔海南、杨晓霞、高原辉彦、本庄三惠、山中裕树、川端善一郎

中国洱海湖春季水温的时空分析：对渔业的影响
…… 山中裕树、源利文、吴德意、孔海南、卫志宏、文滨、川端善一郎

生态健康—21 世纪的新健康概念
…… 门司和彦、Hein Malle、渡边知保、安本晋也

作者列表

発行日　2017 年 2 月 28 日

編集・発行
中国環境問題研究拠点
〒 603-8047　京都府京都市北区上賀茂本山 457-4
総合地球環境学研究所
TEL 075-707-2216　FAX 075-707-2513
http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/
製作・勉誠出版

Date of Issue 28 Feb, 2017

Edited and Published by
RIHN Initiative for Chinese Environmental Issues
457-4 Motoyama, Kamigamo, Kita-ku, Kyoto, 603-8047 Japan
Research Institute for Humanity and Nature
TEL : +81-75-707-2216　FAX : +81-75-707-2513
http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/
Produced by BENSEY PUBLISHING INC.